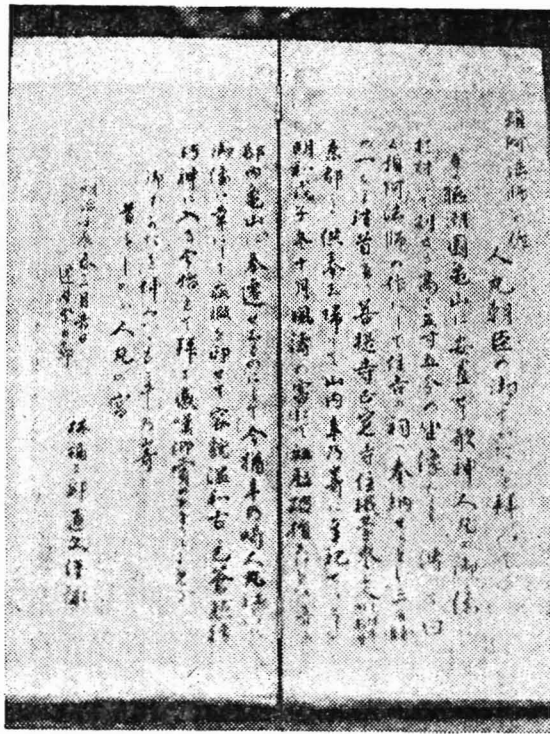


うたう呂麻人  
「辛の埼」

# 大田市五十猛町の大岬か

## 立証の歌板を発見

【大田】万葉の歌人 柿本人麻呂で、妻の依羅娘女(よろめ)のた長歌「つゆきはふ 石見の海の島が国司の一人として赴任した石 ちとめ」と別れを惜しんでつたつ 首(こと)さへぐ 辛(かん)



林さん宅で見つかった歌板

調査した梅原猛・京都市立芸術大 学長は昨年十一月、万葉の「辛の 埼」は五十猛町に「辛の埼」とし てあり、そこに古くから人麻呂神 社があったと発表している。林さ ん宅で見つかった歌板は梅原学長 説を裏づけるもので、今後論議を 呼びそ。

の埼なる、いくりにぞ 深海松 (ふかみる) 生ふる 荒磯にぞ 玉藻は生ふる」の「辛の埼」の地 については諸説があるが、大田市 五十猛町大浦、五十猛郵便局長林 正幸さん(四四)で、このほど同家 の菩提寺正定寺がある同町大岬 (別名龍崎) 空辛乃崎といひ、 人麻呂像を安置した社があったこ とを記した「よふ風の歌板(杉 材で縦四十六び、横三十七び)が 見つかった。

「辛の埼」は浜田市国府町唐 鏡、江津市大輪鼻、瀬原郡仁摩町 宅野の磯島など諸説があり、昭和 二十八年五月、万葉の研究家塚本 哲三氏は「通解万葉集」で宅野の 磯島周辺をうたったものだとし、 いるが、さきに人麻呂終えんの地 は益田市の鴨島であるとして学術

を万葉がなぞ書き残しており、林 さんは「人麻呂の像は家の事情で 現在ないが、歌板が見つかり、 「辛の埼」が大岬だと立証できる と思う。さっそく梅原学長に連絡 します」と話している。

が、明和(一七六四—一七七二) の冬、風流にて社殿がこわれ、龜山 に遷されたが、いまな辛卒の崎人 丸社という」と燃書きしてある。 林さん宅には嘉永年間(一八四 八—一八五四) 通久の先代、惣則 のとき、勳皇の志士、藤本鉄石が 訪れ、人麻呂の長歌にある「辛の 埼」を大岬だとして人麻呂の長歌